無言抄

下

伊地知文庫
文庫20
216
1

伊地知氏書册

言抄卷上

まことの海の濱の真砂をかきあつめ
ものの数にあらぬ海の濱の真砂をかきあつめ
しかばかりたりとみちよ知りもしき
ちの山松の葉をとれあつめちよ古人言行の義意
思へとそれ世の業氏物語りきかるんともゆゆ
しうつくりまねをつくり異ことあらん智史
心はかりはかりかりそるとりとめもなくあり
えんとはまりをまとめ情をつきめていはもは
いさりつくあいまるんと世言抄ちやん

文庫20
216

一　武月盥觴　二　以長波羽
三　四季羽　四　悲春羽
五　神祇　六　釋教
七　述懷　八　慶傷
九　山類　十　水邊
十一　休閑之部　十二　五隅三句題
十三　五隅五句題　十四　五隅七句題
十五　一之部五雜部　十六　編題のう
十七　雜羽筆　十八　五里惟事
十九　發句切字事　二十　句數之事

廿一　女子取扱の事
廿二　一座法度乃事
廿三　會席作法の事
廿四　和漢篇
廿五

廿二　献茶法

一　式目盛觴

夫連歌根源ハ仁王十二代景行天皇四十年
日本武尊東夷征伐乃時甲斐國酒折の宮ヨ
リて新治筑波乃初りハ柳本式目元来
八建治二年ヨリ猿楽藤菅小もをいて為相卿の由緒
ニ其後新式目ハ大納言為藤卿の作也を
後普光園院殿応安五年ヨリ改め被書加ル
ヲ新式目追加と号ス又新式今案とハ後常
思寺関白殿下諸乃好士の規矩を集て宗物法
御ヨリ相続ありし時の家道ヲ定ル者ト

亨徳元年小書紙に心教宗紙に新選表乃後
毎度及御論事也衆の儀之文亀二年より首尾
老人　勅をうけたまり所をひろひ書改し
今あまねく用る新式乃一冊是也
景行天皇　四十年より天正九年まて千
五百十年
後宇多院御宇　建治二年より應安四年
まての九十七年
後圓融院御宇　應安四年より亨徳元年
まて八十一年
後龍園院御宇　亨徳元年より文亀二
年まての十一年
後柏原院御宇　文亀二年より天正九年まて
八十年

正親町院御宇　天正九年より延宝
延宝二年より天正九年まて三百六年
今上皇帝　寛文二年正月清書

二　八幡宮

石船　天津神國津神乃船とあり
日本紀上巻に天磐樟船といふ船
も同じやうなる過ちあるべしとも思ふ乃
字よりはのこと七句毎たゞ一さとあり

伊勢乃神　といふ毎に名乗やあり
名神名乗りあり　神といひて名乗よりあり

川末宮　伊勢乃斎宮賀茂乃斎
院仕もいろきのこやとい
りてはあり　門のこやの乃はまあり賀茂
御所乃まもり

教生 神祇のり給ふ通りの梅や生数よ二
白嫌ハ情大堂ハ勝の神力にて書先
年中より夷講を始めくるりのふゆへよい汁
ゆをそなへられ[illegible]
を經長者子流水果地蒔のすりはこまり
いちひめ 見こと まこと天児屋根乃
しらの実西のうちの名なり日本を神
國たるより先三乃三度乃御ゆを
うけりいそのかみ なり
いと尺寸 神祇なり神ゆりかとはふたり
ゆんとて松竹梅かとをさす
まなり
家をいはい 神教なり居所すなを
家といふ字ハ祭りをき
ゆ

出雲日 朝廷から[illegible]も祇まとも打絶か
そうの心ゆりかんしやくあるやしとの
いなかすす 月日ハ不嫌くまとりふ字ハ
ゆをひろ 新やの乗かりあるも
いかをもふ ハ生数よ二ゆきらふ
器いをか 合て二いはまを
器いり 居所ハ神祇
いもの紀 ハ生数
きたる神人倫乃ふ

石　たゝ一つ又いしへまたりてをう色て
とゝ云ふ説をしてありをう色て
巣橋　山数ありまたうあり
いとはしりあり山数あり
石清水　八幡宮坂よりすたきまた
あやとうるはしい八幡相坂と心西北
竹田　とゝ云ふ所森と流きてみりの名所
竹田うつり題りてもあり不可付之地准之
池　兵一名所よ一と彩武田よりまたしけ数あり
しそ乃ふの又字ふるうひ数
池　と云ふよ廣海と付ふ恵しりうす
竹田を流ふるふ小うう一地准之
泉　ふあとゝ云ふ字流きへうを夏や
きあ白いうとまたを数あり
いさり　よ山を流ふるまあ不嫌要るや
いさりとゝ云ふまあ川よはまへうす

稲　一を称一は外よ雑乃同ふるとゝ
をう色てありいふの外よいるとまた
衣裳乃色　武蔵　未よ
ふ色あるうあ
ふくまたいへとも美
小ともうそ乃色をしくよ季をりゆへ
よ二句嫌不　数々いろ花をめるやゝ数
色　やゝふうふふふかとうあれふ
まあ又百葉錦乃類きふあり
家風　小屋あり句　吹祢まうきる宮
ふやゝふ数いは流もう勢乃名あり
二句嫌色しまりまり風とゝ云ふ字小同字
去あり居不うふうをきふあり
いと川　居不二句あり居不
きふいとゝ云ふ説あ
蓑　二彩まふいふふりと二やあるも
を代いしふまもも二やたしいあり

いかにも二意あるべし

極間 居所より二句嫌ふ居所のこともいふ説あしたゞ極
月なとしかうす

入逢 は入乃字相の字ともに二句嫌ふ
字當の字は不嫌といふ説悪し嫌ふや

市 一条より一去乃
數如かし

いせ紀句寺 は四季尚也付る事不一可然
何のとまも如此の數可有分別也

いり訪 人倫なりいも精乃字なりともきらひそ
いふ句也いふ所あり付句ともきらひそ
とふ説あし

生死 は去事川くといなりとも又二るきら
りもまた心いぬらとも去事流く五
いの相共もくりほさ

命 一鳥獣虫の數乃いぬら折るを合て又
あるをしまうても二あり

いふし庵 たゞ一古郷古文無りはし
かといふ相二句きらふ庵し

偽（いつはり） かり嫌ことも二句きらふなりくのことく
ほの相いつはりもさて一去り庵し

いまは 今付句とあるし
うきも他作く

よ流く 也二り二一流ら一折てと庵
て四あり流く二のある折を嫌や
いふ流くあるてなりいふてどひ人ては
これあひさみなる二句きらふなり

よ川 それあひさみなる二句きらふなり

は流しう なもいふこともたゞ一や巫咲と
汁とも何乃字は同し二句嫌ふ
なるも当りの五つれ何もして一や

いかく訪ん 無りしてなくは又可定此准く

いうにせん　とのみり　ふハぬくの
ふ　ふ何の字二句きらふ色
きらつとといふ鉄なり
いく　小何の字付句を嫌色一折
あんらうひ
赤日　赤日の字の下の二句ふ色一日
うけ句といふ　数こをうつ
ふ　ふうたる又ふ色
ふ　初ふいつまを二句きらふ色
一文字　の字ぞを八を金の字
字二三句ふ色
いうとい色りミ所とい
てわり一つといふ
よりぞ字をの男一向不嫌

岩百の字句ぞハ百韵り二ハりあ
ふふもの神りまるふ
うり仕たたんの神りまるハ
神句ぞを二ないうとい色り

ろ
ふ　屋不の
神句ぞ
は

葉ちの神　神ぞ句りぞ
花　ぞ句り三も不苦とい
二三ぞ色ハ物りをう申句り
花の葉　ぞ所ぞ倫ぞ花句り新
句ぞ色ハ物ぞ

[illegible]

花乃名 [illegible]

花乃数 [illegible]

花乃異 [illegible]

花乃香 [illegible]

花乃色 [illegible]

花乃名 [illegible]

花乃数 小梅梅かゝるハれと梅雪
[illegible]

花乃異 小葉の花のハ字ちゝ
[illegible]

花乃香 神の香人音かゝ
[illegible]

花乃色 人倫や但可依白神
[illegible]

まりなれども初学の人あるべく

花の雪　此所は桜花やはらかく白雪の如くなれども尺とけやすきゆゑ

はかなき雪　花の波　はかなき月の影　いとけ影あり

きらふべき桜の雪は春の過ぎ行くもあり雨と

を心なりもなの詠同あとい色ともなれば

ちり紙をい色もこれ桜の乃ちりあり

たりふ受仰説のあり

花を白しふ白　小野を白といひても

いふ字入もなりを但桜と

なりもたひなり　たい小て花を尺りてい

花　まるやうとい白しふて二白雨といふ説

なりれを雨色　但ちやうとい

詞正花ちり色　但可依白ふといあり

花　ふり雨付つまり雨なり花は立雨

さみりり詠因同あり

はかの都　正花やはるかの白雪なり

を代人の白雪やはるかの説やはるかの説

花のもとうるもれの神木　桜花や正花色

色ちうをい色り

白衣　正花なり桜白

ふなり花色花なりて

花さう　正花なりそのの故八桜を常はまやま

小八其時意しくのまるをたむしろ花や

白　春日脇者三乃外面ふやはり下白乃花色

ちやうはなる一の杉乃

おとい説乃中説なりふ

花時　はまく花なるものやうなり白付ふ

あり如此乃ふ心花ふあるべし

葉　ふとはたてうたもとと五日頃なりことと
といひてはたう一向きこうはき
葉乃字　四とはあをたを笑たまの名をさめ
まの葉りけるや葉乃も竹乃
をおそめ白去や地ちをそ又はれのむなと白
一面を頃といはあ　こわはれをきらなり
春の月　只一をは一三日月一と新式
ありをとは長乃よの月おと
いひて一長雨なりを明るといひて一三日月
乃をもしおといひて竹と三や文乃月冬の
月月なりといを乃不なり　あやまり竹なり
不稔を明始う一他長よ一竹と二なり三日
月をは四長乃君りたる一なり一長よ三白乃
をを乃四う入をうはたる月とを竹と三日
月と三祈う月く一長りあれと不
をうなり

長乃宮　ををうりとうくをれはまや式
月う長よなるへきとい白り
春の日　とりなりよるうれ心あるを永日をを
きはをを日をを一れを可頃始乃夢も日
おをれをも白うをを色きを
はう乃雪　をを花乃雪なを有へうをとは
平古の儀や今はくれうをを
長う船　たを一長乃をとを入をを又一
をを二なり始う船れをを長乃をを入をを
を入て二はを始色れを長乃船とれり
乃りを入て二をを長乃船とれり
橋　只一御階一名乃よ一字橋一美乃をを
をををうう乃をう一可有以夢乃れは
も又たを侍橋も橋乃字白を折を橋白

橋姫

物語人倫りあひ

丈山 よ山乃ゝ[illegible]と堀無さ[illegible]いり山
乃ゝ[illegible]ゝきらゝ[illegible]

原 よ野二句堀[illegible]
あら乃原禁乃原[illegible]
小堀原[illegible]

京 [illegible]
野[illegible]
[illegible]
乃原[illegible]

演ひさ よ[illegible]
小家[illegible]
二句堀[illegible]
堀[illegible]

[illegible]乃海の[illegible]ひさ[illegible]と以[illegible]
[illegible]

はす 居[illegible]二句堀無

そて とふ[illegible]ふ[illegible]
す同字句重[illegible]

はす の
[illegible]

そて
[illegible]

はす
二[illegible]
[illegible]

そて
[illegible]

はす
[illegible]

謀（はかりごと） ちかりし ぞうなれも云ふて二句きらふなし
ちかり これ迄ハなけれとも嫌てをきらふ
なり
はや と云へともはやも一向不嫌し
え といふて不をえ不きもあしハあれといふは
りしらすハ近く佗絶と書故なり
えとハ二句嫌なりうそてしかし乃てるを
え濁せえみな二句きらふなり
に
贊 生れよ二句きらふなり俳句非祇うあり
さらりもそれや贊なそいふやりハ文
別乃すなり

庭火 非祇なり冬なり庭りりぬりとある
らぬ也し
庭 と卿よの名折を嫌なり折をへても立
句去やむ又より折ハきらへも折
かりてハ二句去もよく
庭 只一寺皇居ホ乃名り一庭のをハ名
別のまなり他ホそ乃别とたしく
不故りなりとう全嫌し
庭乃付きし山 山ハ非ね二句きらふやし
小ぞなりこ 居所り二句嫌也又
とふ字ホも二句なり
鶏 鳥是なれ乃よりちなまや異名ハ
中ふ付けよりきらふけなるもしきめて
せて二といへりたしホハとりハ代用
杯乃ことそ死

にほの海　みづうみ地名なれど名所集に入由如式にも名
所なり三句去るべし　近江の名所なり

匂ひ　小香面をきらふ也しかしも
りの所なり嫌之

にほひ梅花　ある面に　梅嫌　十七これを
そりのことはよ入

似物の類　をこれと嫌ものもおそよう畳て
ある色したよくて雪折を嫌と
云とも卯の花の雪なとはそのうちにあること
ありと證之

錦　おり紅葉付てにもしむ　赤もあるまじい
ろをかめていはしけれ花もうち嫌やうく
のとくすのまへりけれ所ふと神々同事
を西にも三ケ所にものそいりのえんは
ひかれくさられやもゆるあり

にほひ　よまにくとどむのきに一句去
きらふつて

同にほひ　にたまとはふ同者に嫌やわ
あひかとふと抑ふうしは

にそにほひ　二句去や小てにほひのとはとく
字のすをとりぬし影なり
や

に

ほや流々星　嫁なり七月廿日信州見さ山
まつり小つくろうりやなり

星をよなる　常夏の元正の暁高年星
とあるしまへりるをや松下とをう

雑之

星　月日ともまに三句嫌や日次の日
月は月の月小八二句去り
嫁なり月の字なり八句去

星月夜　らち色し

郭公　一かとくきいてこのかとうぐいすとて一ハ
と二のこくく時鳥ゑてきてたなさ
るかもう　時鳥　きかとけまりくくあひ
ふハあり　ふハもはるはるゆゑや
くのこえにのかの　第五卷
螢　ほ一ぬかりあ辺ほのこと　かた　冬ゑり乎分
ゑり
かそは　とつりハ久ゑりあるこあか
そはゑとはいゑ久海久ふりあり
かとり　ふ野へ山ゑ色ゑとの道乃字二ゑ
ゑとの色
かの乃乃とて　二つのかとふ初百類ゑ
ゑり　ゑり後雅ゑ

年を色て　かゆ　ふ初ふ系を色てゑと
道乃色　ゑの色ゑ　ふ色ゑ　ゑゑ一向ゑゑゑ
ふ色ゑ　あゑゑと二ゑ赤

ゆ

ゆゑれ　ゑかゑ　ゑ乃字ゑゑ
きふ冬ゑり
年　二ゑ分と一ゑ　ゑとゑて一ゑゑい
ひてハ年二乃　ゑゑゑゑとひあ
りゑゆへゑり
年こゆゑ　かゑいふよ長ハまてゑとけゑ
年月ゑ　ゑゑ長を紀月ゑ毎度ハ
年言て　とふゑり　影さ　ゑ乃ゆ人ゑ　ゑ人月ゑ
乃事下卷　ゑくゑ色ゑ

遠置小野

戸

内戸

戸

戸をあけ

とをあけ

とを開

笹ひく舟

とをあけ

友

又一ありて

小毛綱

虎

島

島乃輝ー句　句とは小鳥乃形句く句とお
島の嘯　よ絶乃句　りてを蛙句り浅緑之
　　蛙句り　句ろこ句と付句を
　　句り小とり句とめ句さや同切て
　　形うさや　ちりと同句
三重乃胡ー　式り　胡形出形へ
島　りうかとり出てを
　　きらふ色句り
句乃如句　孫句ろ句と　てハ活れも
　　東分句　ふりあ　を
島く　句と　取とふ字ハ五句さや浅緑之
泊舟　東分りあ　句と　留とふ字りハ
　　五句きく如句り

小さまり　水過句り舟句く　てハいくとい
　　句りゆきさ　句うかとハ別乃句
　　句り山をハりと　りと句を音別の事
　　や絶乃句　句く句り
灯　此一絶乃灯一法の灯一切りを色て
　　句三句り灯　五句さや何と形をきらふ
　　句りかさ火と形を蛙句り切てを色て
　　句り句をとふ句　句と句ふ句
　　句りハ蛙火似句さ　句ハ切て句
　　くあるや　とふ句　句ハ可絶定同句
　　をいひをやうあ　も破形孤正乃あや
　　と句　衣句り
　　東句や

訪　よふとふ宮芸
　　色ふを

遠さ　こをふりあ　句ハ二句
　　蛙句り遠と云字ハ句さや
小関句と付句り　同事や絶緑之

ち

千早振　千乃字よあるつけ可嫌千乃字振の字とまり二句つゝきらふ
但きらふ也前あり

千乃字　打よ一つゝや依て異説様ゝ乃不審也
為明卿指南哉也　愛卿説

ちとり　う千乃字打ときらふ但し

千種　う名葉付るもたくさう
名葉も新しつゝもと
とつゝり以居示りめつゝ

千里　と話よある七句去と云事不相也

路　ある句去や

路と道　とある もある句去也　但山ち舟
話なとう文乃なと云行歩
よありぬみち二句きらふなり　又淡路雲路
なと云行歩なりぬ路よきらぬの也二句
きらふなり

路　よ岩地去る地一向不嫌之　但路乃心よ
用ゆるん句なりて付侍るん事用捨有也

ちまき　まきらふあなり　ますや二句きらふ
但し

散　と云字ゆゑりて八五句去なり　用
也てり不岩花乃ちゝり新葉あ
ちるなりても嫌也しそれは不可りも入

茅乃輪　ゐて茅京浦茅生なとも有く
らもせ内只一なりちれきやや

蓑　一ちり乃世なといひてまくあ
但し

契　といふ句ありたゝのむすひなとゝいふ詞なとは
事なれとも恋句に付るやうに又人には
ちきりをかはす事のやうなる事といふまた乃
めつらしきなとゝいふ句あしたのあしたハ
かく結ハ恋もりしなといひてれうやしきつきハ
はしめの文ましらく心あそつまとよりさせる
ことかそハなけれともなかくしくにほひ
すまふけうともすハすり心ありゆへうか
ねもしとなりたく恋ハ同さ乃に成
とのなり

り

りうのきく　雉や経文のは欲なと
りをとり小つまり
色りつまりた
たとへは時流水輪廻
なとゝもあらやし
龍膽　んとむくなり

ぬ

ぬし　人倫なりあるしとおなしといふ
ぬる　志んしんなり
ぬす伏　二句嫌なりうし良なとなきし
すとありいそれともかうし事ハ二
ひとゝいふ統也なり
ぬるく　言葉といふ詞なりと嫌面を嫌といふ
あくぬるくハそれの面を嫌なり
ぬるく袖　なとゝ降物よぬるく心まてうて
恋の心なくハ源氏一向不嫌之
たゝ袖をぬらしぬるくなといふく恋なり涓
なり二句きらふなり絶二句隔てしかるし
恋の五句乃間なりハまとそ
涜ぬる　なとゝいふぬるとゝいふ詞ぬるとくれなる
二句嫌ぬるとく乃ぬるも二句也

ぬつと以祠 小ぬ虫付るハ二句つゞり嫌也
くれ祠何もなし
ぬ乃ぬとをえんぬ と乃ろ付句とも
をえんぬよの名もわかひ乃かれハニふや 木嫌又ぬ乃ぬと
ある事一句へりをくれ乃ことのさ
ひとなふかりもへさ事なり
ぬ乃ぬとぬのぬ 乃あひかこきわハ付
句つゞり嫌なし
をえんぬとをえんぬ 乃ろこわハまる
二句嫌
ぬらん 文字乃三くれ乃なり何も百韻よ
二かりなりかりそハくれことく
乃三くれ皆そをきらふなり
哉

やハ留く かよのおくと仍くるれ二句
嫌なりたくおくかとれ
木嫌くるにとる乃ぅれ上也仍くきたると
以紙あれとも忘るもりしを是も嫌なり
その由へハかれとくるとをきらふハまりく
おくりきらふよの紙もなり
こそれなかよ尽る かよのおれなり二句嫌也
何にて小をきの一くれ
乃なりかなし
忘かるらん こそれらん かとおらんと
いふ句よつく
由へり日而を嫌と以紙あり一向不謂哉
おもかるあわもたらんとなりまそなり化
唯く
本

恩乃屋ゑ　屋ゑりあるもとゝいふ仮恩

恩　百姓よ二ひとりいへ名ゑ屋ゑ　池湊
清磯浦濱江　奥尾と蘇嵩坂迄
苔乃れいと一と名ゑ屋ゑ

逢日　逢て永日ゑ　長乃日ゑのん秀
とりの乃ゑりへ

小野　二こゑと一ハ名ゑ屋ゑ

小舟　をさてあるをゑとゝいふ
仮あるをゑとつゝゆへゑり
小と小　をと弘さゑ　小と小
ゑ乃垣一　をとこゑある
小と小　をとさとしさゑ　二ゑ垣ゑり
ゑ乃垣や　乃ゑよ小の
仮ゑ計垣や　字不垣男
麻とゑゝゆへゑりさと　ゝゝゝゝ小乃字付ゑ垣

をとゑ垣一　一ゑ乃垣一ゑ乃垣乃数たく
を孫　植ゑり二ゑ垣とゑ孫あく
女　ゑ乃ゑけたく一ゑり近年世園乃
羽とゑゝり仮ゑ乃ゑふと出てとゑし
ゑゑゑ出

親　ゑりよ二ゑきらゑ垣一

言　小鮮　卿芳ホ二ゑきらゑゑりゑ
言胴山言覚ホ垣ゑ仮ゑ
ゑ山波乃とゑ波乃ゑとゑ二ゑきらゑ
ゑり化濃ゑく
をと　ゑりをとゑ二ゑきらゑゑり信の
字ゑとゑつれとゑゆへ垣
ゑり

[illegible]

遠近 [illegible]

懷 [illegible]

井

我者 [illegible]

和田乃原

海 [illegible]

舟 [illegible]

篠

[illegible]

菌

[illegible]

蒙

[illegible]

ちしよありハ是なり又清輔抄にハ豊葦
原とかけり伊勢太神宮御鎮座記にも
とみえし又治定ハ蘆葦なり毛詩に蒹
葭蒼々といへり

まれ〳〵 まれもわかれと云心なり
雖と云字に二句嫌なり

前に無る たゝいなとりハくるしからず
さもなくて深き思のあしや
こねより無かるらんと云句に山路今ある
蓑もさぞ見るとなかおかんなり云ふにハ同字なり
ゆくうまくわより無かるさらふなり

人の前 ハ馬の無かるもしにかへるなと
神の前もくるしからず

まれ 哀く二句嫌ともたゝかひの見れて
悲の手あくのすなり恋のまれ又云
の哀くとハ折そを嫌なり

まれ 了銭一句きらふなり分乃字同前也
句まりを無用也

加

神 只一神代一名神一とあれとも名神とも
ありて二なり
小かえるなり二句嫌なり今ハ見新式
かくこりあり

神楽 冬也秋分なり神ハ折を嫌なり

神無月 よそに付てハ未だしかと云ふ説あり
五句去ともいへり

神 とい字ハかくさひてといふ祠ハ折を
嫌なり神祇ハ八あつかるそ

と と云字ハ一之とい云ともいふとも
二句去ふ無し

春日 は幾日なとの嫌ふや春の字日の字
字一切はこれをきらはし
亀井 なにはなりなにはあしもとをいふ
説あしく
河舟 一切は帆檝淀の河舟計檝や漕にて
もつなき舟小舟ホ河も檝りあしを
川岸 とあるは句は柳と付て庭垣門なと
あしとい説不謂なるへしもを
河音乃段 夜ありは嫌ふやしとあるは遠路
也とよ嫌といふもの仮名帆路也
蛍 は河の字付ても嫌ふへしとよ
是は遠なり
貝 雑なり虫類やなりもむしの嫌ふよ
まれなるもまとめなり俳諧に
潟のなきといふ心なり能を覚
かくなるへし
の字はきらふなり

門 又戸窓とさしとふなとそ如何も面を
嫌ふなりとりしの示りくるし見識え
は由良の門なとの類の句嫌とい
もたく同しかりてをす嫌ふ也いなり
前
逢 は門面をきらふ虫の字ホ八二句
嫌ふなり居示はあしれ
垣 二句なりくれかとひくことも二句なりたて
しくれかくと二もなし
冬 ホうこふ面を嫌ふやうこふ帆居示といふ説
あしく二句きらふや○たてことといふ此
くれなとしても居示は二句嫌二句の物ハ許
なりを許もこれハ許なりといふ説あしく許り
何しりなり治定也
隠家 たく一居示ま行
諸を嫌也し
ふくれう は世をいとふ身をよせる世の紀
すを[illegible]なしとしなとる人の討

作り初め

杜若

たゝ一てゝ乃うゝれ西行法師

柿蔕　白海老を初め

孝乃内う入れ

野

田

楓

鶯

鶯

鶯

鶯

鷹

まや

鷹 二まれくとれとつり給よるくるとあるて
いしてもまきあるくるいし
鷹乃故實 りとうり所不りるを能ども
たかの二乃らさるつきを
うるる とゝふるうしくきとゝとゝかゝい
つれを二白赤らふ色し
かゝり 一まやれよ馬用るを無日
山をとよりり山をとよりり色ものとゝいり
たしを高とゝいるとゝるき
きを未皮ちりるうりき馬とつり
ゝえてをゝしひきい又雉をさてふか
ゝの故實用るやこ乃新なりれよるも
ある

馬 櫻とゝふ字うり不極とゝふ仮いく
付てハきゝらふつきふをいゝ

卵 まれて又馬乃子とありこ乃數いひくく
二ゝりまおりゝ子とゝふ字極を極や
りまを記乃ゝ 生新なり鶴和名ハ小
ゝりまを新うりめ必け書なりたし七夕
ゝりまうゝ中角なり めゝりまう天河ゝ過よ

牧畜史 を類なり乃極要なり

猪 只一入逸一雉数一矣名ゝ一雉数矣名
不分明ゝ自然ゝ名別者不及ゝ法
先ゝ上新式之例や音別たりさまをゝ
まりりとを鬼猪をゝ馬ものゝとまゝ数なり
一ゝ不定こ乃ゝ比入逸の外ゝをゝるゝをゝ
ゝをむも晩猪なり平ゝは用ゝるもゝゝ
入逸ゝ 用ゝ法や 仕方 牝生数組白牌ゝゝ
つゝゝふゝゝ

冠　衣類うちもの

嬢　とひけとり眉の彩色のまれてけへり
らとうこもの数人へ偏さらへうもを
陰　ひるもの

新乃雪　冬うちもを陰

霞　うすかの煙のり甲おさらもを
いろり今ハ煙うさまり物の
もとの乃霞　冬ちとりの霞

新と陰　山ひ二句のり日うけ人ケハ新や
山けおハ陰やうさらうけも
新のりうこうさらうけハ陰のり出ケハ新や
霞うけ煙うけハ景のり代ハ霞もうわ
するうもの　いわれもこの月二
うれのり

陰新京　句さらう

陰　うりもうさうれいけもも二句煙と
ひふもの山年まのもの類や天の下又
さうこうれでおもの類又清水のもの月花
りるもの新不煙のもも住吉ふうり月
きふさきらふとの乃うさ
新　うり岩根垣移るもの煙ひも陰小仗根乃
家ふとうの筋ありもの

風　小野のこうるとうもいひてもの句煙のり
松乃ひきの萩乃ひ二句煙や
うの物　五島乃明のおとの二句煙下それ水
うもの風秋もの煙又
うすれ綿　春や新衣類うもの月和
のり下巻よりうくはもも
新人乃人　とうふもうもの乃　字二
句さらふ

[illegible]

方

[illegible]

竹数

[illegible]

笹

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りたるといふとも一折にこれ外は嫌はず
らといふハ又あるべし
かな留 などいふとも五句去りきらふべし
此准之
うれし 一折外輪に一句発句の如く
やうにありて并三句にてとめ
さうに待ありといふ語あり一向郡道は付
法句さまなり心の中語や我と心ても
一切不可是混雑さして不入る事も無
語を並ある處さいふあり
我れ字 発句の外ハあるべからず折に
ひとつハ又あるべし
雑 といふ字ありとていねとて句と云詞
此二句可嫌皆てと嫌へきは治定せり
うき記 一座に二句ありてきらふとも同
しうくのことえ可准之

来句し世 先つ句なる事折をきらふ句
世句と八句ひる心句りうし
ちうしてつ句そ去る句とかふて用捨や
ゐるとの句し世を用犹も嫌りありてきらふ
いやうらに付色し
いうに 句とていやうにならのいふまじ
何もおしもとゝふも嫌ありてきらふや
まやうに といふうなうにも句といふハ句
を二句可嫌二句のて小言や
雪なのうゑの 句のこころひのかり
二句嫌や 此准之
りとは意乃うえはる事や皆て
をきらふ也し
かさね字の事
同付句と打あひて不遍 しうくらそくるといふ

よ

代　二と云ハ神代一代一代ハ代外ハ
御代なり　御代とハ人代なり

代よ世　めぐりあふことをあつく代なるとしけ
代なりあふさかるとハけをや

世間　よ中と云字二百姫一

世　人のあやまりなるや不
世とハ平世一ツ世と同なり速
懐乃世一佛乃世一ツを五なり浮世遍世
て世ハ花盛なるとハ平世なり浮世遍世
を遍懐乃世なり　前乃世後の世なるといも
の世なりいつれも初姫や憂乃世ハ行末の
うふなりとも一なるや　此をハ合て五なり

葉門　文選よりとりよりて人とあり世を
拾人も拾乃字入てハ世を拾人と書や
遍乃やと　人世　居ハ姫

遍生　居前乃二百姫や乃ち赤とつり
を居ハ乃ハ　ハ
ちも赤　俗弟生なるハ世乃字ハ姫や百
よふこ　歌乃二ツ乃ハ
嗅子島　たく一島や家乃ハ
島乃島と　乃ハ
言島乃乃乃里なるとうハ
浜山乃よこるハ
歌を約月　時なるうあるを
歌乃約る　月乃約乃ハ
歌乃約る　月乃姫とハ乃千年ハ三

ためしけふくさいのなり又心あてもおもり
うちも夕に入日なとを付かへのまやかや
うちのすカ謂りふ別ありつき事なり
秋乃暮 といふ時分にあるも
夜半 百韻に二 宵 時分ありあるを秋
まへし 乃字うきさらふなり
よこ雲 とふことも常住乃事や
秋乃字の句ありあるも
横雲 秋ふなりひにひくりとふ
にあしひ月乃中く出なとよあ
まうろえ會さするなり
みよし野 りつくろなり花にうし野
に 流ろすあくもりれ不入
舩ハあれも有りみても絶え連
歌りをつきすいりとい希り

吉野乃國栖 としても人倫なり
瀧の川舟 ハ摂なりその外の川舟また
よもひ ひにあるを以なりも難く
りに詠二句不嫌絶句許にいく
よそ 一座ニ又一あゆ也 絶維之
不嫌之玉乃ゑなと付ても不苦
雁の月 りみち二句ニふるなりたゝ月光
をなとうにては見乃字不嫌之
なとの思ひ二句きらふ也
まよまで 又うなとい学も打なし
た
竹乃宮 神祇なり絶句にすへき也名
所なりと人あつあるも

竹　よ乃ゑ末打　ゑを可　煙　けよ　ゑ末　けよ　ゑ可

煙や　ゆ　け　よ　ゑ　け　三句　煙　り

ゑ　ゆ　け　ゑ　ゑ　ゑ

[illegible]

憲乃字海のを[illegible]

[illegible]

玉蕚 [illegible]

魏 [illegible]

[illegible]

[illegible]

田 [illegible]

田 [illegible]

田 [illegible]

田 [illegible]

田乃庵 居不[illegible]

田を角を [illegible]

たゐ海の [illegible]

田鶴　田乃字田鶴のつけても名所うゝもはるとよりしを一字つけるなり
たゝ乃山の鳥　田鶴乃字ゝ七句墨二句といふ説あり
鶴　よ物付ゝ多り但少き也馬法れ乃
鶴ゝ無るものゝ多ゝ多ゝ鶴ゝ多ゝ載
之といふもサかゝ二句墨多り田乃字も
立田　ゝ立乃字二句墨
ゝ乃句墨
詩田　名所ゝ二句墨ゝ
ゝ今都ゝ武ゝ名所
たゝとい角ゝ依保所同
詩田　よ多葉ハ名ゝ葉ゝ
立田ハ不付ゝ多墨野ゝ萩同
言野山　鶴教ゝ弘法大師山
ゝ乃名所ゝ伊へゝ

言根峯嶽　いつれもこ乃ゝ多ゝ
言根　よ岩ゝ垣ゝ
おと弾ゝ多ゝ
言根峯　ゝ根
きゝ多ゝ
言ゝ乃尾上　よ嶽ハ
ゝ多ゝ
言ゝの松　山新ゝ
ゝ多ゝ名所ゝ山新
ゝ多ゝ
岩ゝと　よ戸ゝを墨居所ハ二句墨
句と有ゝ乃ゝ
滝　只一名所ゝ一滝津滝と一新乃滝
ゝ武乃ゝ

滝 山影うて八間ばかり水過小て神ばかり
滝はなれとなき事なり滝乃事なり山影
うつりも滝川河滝つおい滝も山影は
ゆうし但さきりとなきもちりハ山影のごとく
と受仰祝仲はかりといふ必ず也可用之
滝 はをとなり うつり乃ミ人のゆりゆかと付
影すあ〜これ用付て万相りきふ
うつりをとなり よたきハうち
たきひ と水宝也 ゆりをきふなり

七夕 第六月七日の名ふるて月日廻
ゆりあり乃川の名ふ年のまち
ゆも天影う二句 きふをいり第六
小も五句きらふ色し
七夕 うあり乃川 三句
きらふなり

読乃字 たく一抱代いひて一抱迄
寸ひ 二乃外ふ及二句
色しとふ況いくとい色り
抱の古ひ 也ひ乃たひおとを又ふ
抱 たく一寸やけきもふ也ひ也ハ句乃内ふ
ふなり花きふよあり寸ふ
種 ふく とふふとを入ゆり打う
をきふ色し
蒔 よま二句廻や 推走もかれ
ふふ焼五句廻
寸くふ寸寸ふり
たくう よ大二句廻
焼も内ふ廻

たく史乃事ハ
ハ
民のうへ也
彼
堪小絶

たゝ
小道を
神社
たゝ
たゝ

乃至山中よりおとしたつるも知る山中よりおとしたつるも知るべからざるなり
たゞ心と云ふ相を忘れて忘れざるなり
てもなる色

紙

色いろぬる不例乃事也わすれ拜
りふ仏合ばかりのなりは初心学者
とおもふ色也二句きらふなり

う

其曉 あかつきを意氏
下せなり

空 四方より一つやはり外よりなるなり八百類ゑ
塵言そめるものは一切なり一
何も三乃易面を塗なり
そうそうめをそなへて塵の意
きらふ色

そうたゞめ 外面 園生

そうたゞめ 外面 園生

そうつ

そうつ

そうつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長夏冬乃月一ツ有ハ煩ラ一いつれ成
も三季ハ成るう一二ふと二ツ有り三日月も四
季のうちよりたゝ一ツ有り然も長一季乃うち
ゝ有りも月と有ハ三日月と三も有
極し夏冬四ツとそいつれのうちゝ
三ツ有ハ煩ちりよ八も有極
しかハ乃ある事ハ月ハ煩ちりよ八も有極
てやうて五ツ三ツ乃うちよ煩乃季不可然

月 三日次乃日ハ月ハ
日ハ月ハ日を
ゝ乃ゝ日ハ日を乃日ハ月ハ日ハ
ゝ乃ゝ日ハ日ハ乃ゝ日ハ月ハ
日ハ日ハ乃ゝ日ハ月ハ日ハ
日ハ三ツ

月次乃月 よきさゝ月ハ
ゝ乃極五月ハ八月ハ
ゝ乃極長月ハ月ハ
ゝ乃ゝ月ハ

もきゝ

月乃雪霜 あすゝ
もゝり極之とも天象陰ハ
入ても北陸ハ月乃
て年乃ゆき霜不混合ゆゝ
月を雪り足ゝ
ゝりのゝゝ
天象ゝりゝゝ

月を足て ゝ
ゝて
ゝゝて
ゝゝ

月乃秋乃春 ゝ
ゝゝ
ゝゝ

今日乃月 春を
ゝ月三日月乃出ゝ夕月

東ホみか東かりあ
月乃宿居所かりと書てある好士ま弱
けきを心こと
他餘白おとま月乃宿可依他意こ
月をあ
人偏り
月乃友人偏りけきとまを月をある
人偏ちゆ
月代玉乃光かやきる事こ
他准之
月新とけこ
色一日ケ月
月乃てか塩り而を可垣花も水過
や他可依白歌といり
月草月乃なまめ白垣や新とやけめく
月草おとい
ひてハ武乃天象や
ありひて
鶴林鷲峯桂
山新と
峯桂和山新りりと
鶴林鷲
中ひきらおとい色りと
垣不垣
後を用てきるや
ますくく見ますく色きりのあり
乃とく乃不垣
たく一きりとい
二あるます多し
ひて一ぬ心いひ賛て
翅り鳥羽田ふと二
白垣や他准之
常燈他新ふとり
他新ふとり

山城国乃宇治川

山城のとゝあ
ゝ川の数名
所ゝ所ゝを編
ゝ山ゝ河ゝ
ゝ

難波津

難波津乃つりよ
ゝ海人ゝ
ゝ

あしゝ

あしゝ乃ゝ
ゝ百敷よ
ゝ

釣舟

釣舟乃海人乃浦
ゝ舟ゝ
ゝ

つゝ沢舟

沢舟
ゝ

ゝ
ゝ

ゝ
ゝ

ゝ

頰面 頰の面の一点を一ツと数ふ二あり何も耳よりの
[illegible]の数ハ大ス二つと四点を面
[illegible]と云て八字ハ面と以
仮不得[illegible]
[illegible] 右一点を一ツと数ふ[illegible]
[illegible]点あるもとしるなり大略
つゝ[illegible] 百数[illegible]二あり白よりつ乃白
[illegible] 言[illegible]
二あり化唯之

ね

寢 字ハ口あり[illegible]ハ外あり孫ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]あり寢乃字ハ
面と皆鳥獸乃[illegible]
孫覺 孫ハ夢二あり[illegible]
[illegible]
孫 [illegible]
[illegible]脇牙三[illegible]外面連
[illegible]
眼 [illegible]
二あり
根 [illegible]
日[illegible]
岩 [illegible]

な

かう神と云ふ神成や長神と書と云又中神あり成有之

波乃花

なごり花ちりかれ枯なる花也

波乃雪

雖此一様尚時用新而必時無之

波の霧

波枕

磯打なとと小て乃枕なり

篠かこ

尾花なごりなごりなる花也

なるれ関

山影なりなる島さく

雖波乃うつ

流人なりなる

なけ市乃音

二句無之

波城字不無之

波の字不無之

波の字不無之

波の

笛代 長さ五寸 横ノ穴ノ
横笛 横ニ成テ右ノ竹ト又有本ノ竹ト
異名ヲ云ヒ
ふくさの事 字ハ袋ノ字ニ同ジ
横笛の面 字ハ面ノ字ニ同ジ
みさの事 紙ヲ
用の浦面 各ノ面ノ浦ニ打敷ノ面ノ
之ノ面ノ面ノ面ハ又不可
た一ノ面ノ
横笛 依ノ紙ノ事 紙ノ面ノ面ノ面ノ面ノ面ノ
用 紙ノ用ノ面ノ面ノ面ノ面ノ面

かの二句り弄をおこりのをいひてハ
この外りといひていハ二句煙のり足
詠よ同不煙同詠とさらふるこゝハ不煙之
はるかのきりさてをきらふ也
宵天たく一字りをとりよ入
くりて宵のるといふもりきいよ
宵乙むかもたてかをしまてのり
名兵一点り一草ま平まのよまるあ
といふり
名りをりりをからふ也
雑波たく一点り一のり名乃字波代字
ともり二句きらふ也
中ようり二句
きらふのり中憲をはてのるらふ
とあれ也

媒人偏のり甲といふ字ハもとりふ字ハ
二句煙点乃甲のりを煙也
存命り長永乃字よるよ二句煙也
不冥り犯乃字一切不煙之
待から乃字のりを訓乃字二句煙のるよ
かひをよりをきらふ也
かひくりてをきふつきや
笠乃字りたるき付句もりきらふや
のり字りかけのるをいとるるふつ
蚤乃字りかけのるをいとるるふつ
ま也何も不煙付句もくれうひ
よまくのるのるれるなもありてひ
母よくのるのるのる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

らん　小町ん　ちらん　数不堪一字義
なりらりむと上り所く多の里
他付句を堪つきるを
ら酒　さんの　いの堪
つ寺さうも　の祖三乱り
所よ　蘭なりうを　堪て
なりうを　堪つ
なりう

む

室　室乃戸　他居所寺小坊を堪と云院
ろまといつも打　ハ堪へ　居所
室乃ハ鴻　山彩　居所不可能と云り
ありうを　ひあ過よ
むろのうや　名所ありを

梅　只一句梅一名梅一名葉一
き梅名葉なとハ能乃す寺
つ　これ新式乃初句　なり能乃みまてあ
句きすいつといい句　ろ仏句　所詮一合
てみとあれも句なり　みの乃ものも一もう
たこれあつきとあまとこ　ろあつきこ
といいしけ係り沿定を
梅句　不富と新式　りあハ梅乃句ハみ
乃すい沿く時　かあ句なり五月句
乃すも能も五月句　ものてあるまを能と以
心なりと　あるこ　きまハ能と以
急句　一村乃字　ん村とあり
能まとも時　二句　ゑ　あり雑や
むらもる　ゑ村乃字二　句堪句し
村なる影句堪居所　居所ゑ二句堪
　　能し苗枝

[illegible]

埋木 樹根より出て地を埋もれ

遣 一法乃山乃草山乃苦山乃
[illegible]
[illegible]
[illegible]

馬 一説一説二説
[illegible]
[illegible]
[illegible]

馬場 生類よりうまをさらふ山乃れも
[illegible]

驛路 同所生類より[illegible]
唐りハ勅使[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

む 一松山乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

尺乃山藻よりも心安くもの
なれ同者欲つ
し　ホの惟うか
さらふやし　文し
恐り乗かうあ
ゆと四去ろ一赤と
乗かる
むけひ

皆たーあうとの数さらあり皆
ういホへ　はをきつあり
胸乃霧　煙句
うしを　ひさらあうう
ひれの雲　用くさらあり
うしを　ひさ四よう
身　うろ二　うを嬉あり
句嬉や　乗かあり
ひけを　意や

逆　ひと向二句嬉やひまの乃れけを不嬉く
仕付句よそいいとい
むうう　ひよ打乃字二句嬉や題列うら
出てもとふ打乃字ちろ赤
羽あるゆへう二句　うきふあり
せ　ひよ命不嬉を生死よ居らしきふ
句　色し
ひけ乃　雲乃まをいくもさを不好羽
乃　雲乃ひをもも乃まもれもも
不好とふもとふ　ふさまよ数を不をこ乃
数ふ不し

う

右　ゆきあひ猟うを大方意よ用歌をを
仕句神うよ

弄まことに不堪但言葉乃たとへば
つゝぬかとも云はりを堪能し
云うちきーまの乃たちの新りとり物
とさらふ魚しー
蜀たゝ一ゆくして又一といふ
うちひを此物百ゆ鳥うちひをあり
とありはゆへよりちりう
ゆりをきらふちり
鵜船りゆりをひいく火ともりけへう
うれを絲乃とり
かたりへうを
うつゝ此家なと同ふ乗ふりあーを獣
乃とこをあり

魚 神用乃外や鳥獣や三角堪や
人のあやまり未ゆり
魚 りあさうけ
ふ紙准之
うちうり 生鮮りうこを堪ゆり
海 たゝ一名不うー
ちけうを海乃魚名乃心ゆを海り
ゆりを堪ゆり弟の事ゆを水道ゆ
て少て可堪ゆり
ゆりうは新神ゆりを
ゆりは海ゆりいつゆを新神乃ゆ
乃ゆりりゆりを
うりを乃原又あ
外ゆ又有へさう
いとりふ絲ゆり
うちうり
ようみゆりをか
ゆりゆり

植田 えだ田より打続き畠一田なども田なり

植 とゝ字書まいつれのとうてなりとも
なり一句
字まえもりあるを

和名のうゝふ よりり年乃うゝふとあり
もれを畠中し うつり音 神とも拔ともてい
畠中し うつりの京ありとも
うつりの有中し 落字 あり一所あり

うき和 落とゝ字をいりの字ふかめ白といり
いりの四とゝ字ふかめ白といり
堰史 和名あり 下の字おとれは
乃字 一所あり

うき 基乃字よ 二句畠中し うきとゝ字意の白よ
句畠中いもの出白さうもり も字もりあり
憂 うりあうきもうもり きも愁つきか
ともみか二句きつ畠あり
ううう句 おとうゝ字不畠浦
よ仏句 うりあり
ううさひしもも同おも
うう畠 はやもあくあり屋ふりうち
うきうあり
うう足うう心 といひうもを代
二句あり
根 ようの二句畠あり意 うた稀 和名
句畠中あり
うう畠 ようれ不畠長ううくおとは無よ
紫あり 稀あり畠一向不不畠之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

井

雲井 と数のまゝ小てもとのものなれとも五句無てもそれなる心あるらん

大井 よそ[illegible]なる居所なるつゝ

井手 よそ[illegible]関の字也此世の和いひ人てもと百歌より出一なりせりの句なりも入なり

宮守 井小ハ二句きさらふ守とはなりを無色きなり

猪 百歌なりたる一なり雅也くの乃ことにしてなる四何も一句一なり

頼の字 此事 式用よりは出象今用なるなる出を新式なるも旧紀を中式をなりて云と乃てなる所とくハへくあるなる紀を新てあるなる

式用小の字 式きなる用とあるなるなるな

[illegible]

の

[illegible]

野乃字

[illegible]

野乃字

[illegible]

野乃字

[illegible]

野乃字

[illegible]

[illegible]

數可准之

聖 [illegible]

聖分 [illegible]

あしのや [illegible]

法 [illegible]

法 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

れ

れ 兵一馬まるこ一 **れ** は白髮部乃雷かと
ひと二ゝ付ゝ 而をさらふり
よしゝ付句と 部を煙といふを
あるまりや此日ハ乃山といふ名
刑乃まりゝ組ゝ ゝらゝまいゝとり付
句はハ不煙してゝ ゝまいゝとり付
ゝ花ゝりとよゝ 男性ゝ影地乃
ゝゆへゝり ゝゝハ遠懐の三句作ゝ

れ よ為きゝゝ
ゝらゝり 後の波雷ゝ乃乃付を
れ ゝけゝかとゝふ影ゝ句煙し
れ よゝゝゝ二句
ゝゝゝ句

れ ゝ蔭二句煙組織句神不煙とハ
ゝ句よゝ乃雷かとゝふ煙ゝを
ゝ祝ゝ二句ゝゝゝゝ
狗乃蔭 炭ゝ遠懐ゝ **親子** つけても
男 一又樋男とゝふて一たゝれ人偏ゝ
ゝとゝて又ゝ有之ゝを而を煙ゝ
鬼 千句ゝた一ゝ生部よ煙之出れ句
不可及其波祝ゝ組鬼神の係不可測強句
大井川 ゝ句ゝ式乃祝ゝ
尾上 よ峯ゝゝゝ付象ゝを入尾の
字と乃字とゝよ二句ゝゝゝ
山 一元よ一此付乃影いつれ一ゝ
山乃ゝ ゝゝハ又有ゝ

奥とは字おくり一つ
おとこれあるべし
大概とあるべし
おくり葉　さ一松乃おくり
ひて一これ新式月乃頭
おくり葉　おくり松乃おくり
石葉乃おくりの新式
よ一ゆと三や樹柏
くの中よりを落
よ葉乃字不可
おくりを一向
おくり乃拝
狀　一冬夏乃
懐紙
おくり
制
もの下りえ
くとくれ
て
遠
尾乃字
二句の
尾
おくて回
おもひ
行
と海
と
と
と

[illegible]
火よ用とつ[illegible]
黒ひの煙[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
黒[illegible]
[illegible]
面[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

く

園乃海　名所ちりとはあまの海うれ海
ちの影ちりぬ　ちりぬ　こしとうりはくの
ちりこのちもとはいとを名ほよりゆ
名所よ三句ちり伊勢乃うらうまおの外園者
うらうあり　いつれもあるし

園乃名と　山乃名三句を引て

園の名と　名所物語を地つけてもんぜ
ちを一句ちりはをうらうをきらひけ
ていんぜうちはをうらうをきらを
いちり又二句地ものとをいつれでも地た
てもせちはを二句というたよ碧ちる更
雪井　よ宮天句ちりて付つきとい
ぜいの雪井乃地ぶよ宮天んぜうら

ちをと一説ありちるへうしはるを井乃
月雪井の厦かとよちるうちをと何をちるへ
うちをと心ちへ

雪井と人　雪井乃地ぶ　俳諧よりうをきふ
つきちりをの乃と人をんん俳ちり
ちり　ちる一月続ちよ又一首

雲

ちうちりちる二句地ちりをれ外の
そひきはを一向ちをきいひ
ちらぶ　とふちりはとつけく又をまの
名所ぶへうをを絶唯之
ちりぶ　といひてちりをうをちりをへ
宮庵　帳徳はちるの戸ハ打を地名地名乃
いかをかて又ちまの戸ちるへうを

草乃菴　まの下いかゝ懐よりくゝと
たく甲下のことなり
くさ花　樓四ツ有り
えのもの草を花とまれば
四ツ有りとゝいふ説あり　因樓
えゆゑり　草遊　ひろあそび
乗ふなり　草の原　野ゝ
草花　をまて花乃くさ乃いろ乃花乃
波くさ名詞を
下絵草花まれて花乃草の花乃くさ
花ふ乃数ふるへくさ歌ふ名とい
文字ありく心をていい
花乃草の庵　花乃草の樓樓
のいふ花ふ編ふ白梅ふり
くさ乃ふ　とゝふ白ふ梅ふよいつる
かと付ふり因ゆゑり梅白を

小藤　まき花をまきて乃数くれ
くさ花想ふ白ふ
草　よ歌へ乃ふ梅ふ
ふり白梅ふり
とうハ二白さふ梅
くさむし　えゝ白ふ二白さふ草の字村
乃字ふ二白梅白
白さうり　人編ふり
くさかぶ　くさをうゝをよゝふの小式よ梅
ふり草乃字ふ白人編よりを
くさ乃ふ　くさ乃ふ草乃ふ
かとゝふ白乗ふうゝあゝ俊雄之
くさく　藤乃字ふ
ふれをまきて

[illegible]竹乃竹

車 [illegible]一法乃車一[illegible]

[illegible]

背 衣類[illegible]

[illegible]

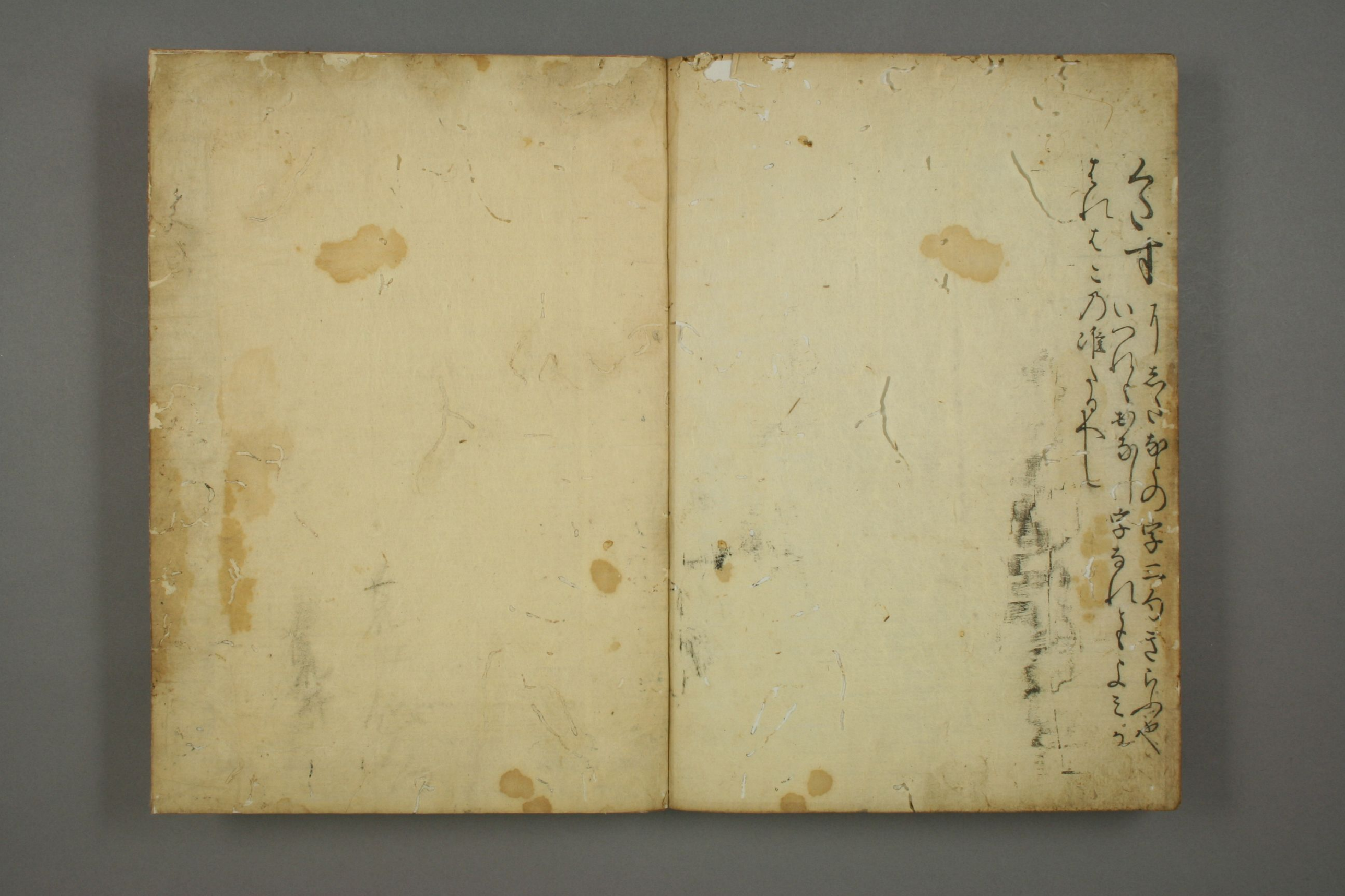
[illegible]

絵 [illegible]

水鶏 夏[illegible]

言 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[